

地域包括ケアシステムの要となる通所介護事業所に従事する

熟練ケアワーカーの就業構造

野田由佳里 ^{*,1)}、村上逸人 ²⁾、桜庭葉子 ³⁾、下間はるみ ³⁾

佐藤裕美子 ³⁾、石浜恭子 ³⁾、山本満知子 ³⁾

¹⁾ 聖隷クリストファー大学、²⁾ 同朋大学、³⁾ 1000 の事例研究会

◆研究目的

地域包括ケアシステムの中で、既存の通所介護事業所は多様な介護ニーズに対応しており、利用者数も多い。そこで本研究は、「地域型」の「介護福祉実践」を担う熟練ケアワーカーの就業意識の構造に着眼し、目標となるケアの要素を明らかにした内容を研修プログラムに活かし、介護人材の量的確保 及び 質的確保に寄与することを目的とする。

◆ 第一研究 郵送法による自記式質問紙調査

方法・結果・考察

(1) 研究対象および期間：A 府（20 名）、B 県（80 名）、C 県（20 名）に勤務する介護職員（120 名）。対象施設は、筆者らのご協力をいただける事業所や介護職員に依頼した。調査は、2014 年 11 月 7 日から 11 月 21 日に実施した。

(2) 調査方法：基本的属性として、性別、年代、介護者として勤務年数、雇用形態、保有資格の有無を尋ねた。保育者の省察に関する項目は、杉村他（2009）をもとに村上(2014)が行った介護における省察の関する調査結果から質問に修正した。また、介護におけるチーム力を、遠藤他（2008）の学習する組織に関する質問から構成した。質問は、以下の 3 つの省察と 5 つの学習する組織の領域で構成した。

(3) 結果：回答数 103 名（73.6%）のうち全回答者 98 名を対象とした。男性 40 名（40.8%）、女性 58 名（59.2%）が 6 割を占めている。雇用形態は、全体では正規職員が 85 名（86.7%）であった。保有資格は、介護福祉士が 64 名（65.3%）で最も多男女別では、男性 29（74.4%）、女性（35 名（59.3%））であった。

(4) 考察：介護者自身の省察として【自己に向けて注意】と【自己の介護観】の 2 因子構造が妥当だと考える。他者を通した省察に関する項目では、【介護過程の活用】【他者情報の活用】【専門職の連携】【他者理解】の 4 因子構造が妥当だと考える。しかし、信頼性が高いとはいえない結果であった。他者を通した省察については、チーム体制と組織環境との関係を検討する必要があると考える。

◆ 第二研究 インタビューによる就業構造の検証

* 研究推進に遅れが出てしまい、第一研究の結果を踏まえ、第二研究として熟練ワーカーを対象にインタビューを行う予定であったが共同研究グループメンバーでの協議をし、計画の修正を行うまでしか行けず、次回倫理委員会に提出出来ればと考えている。

◆学会発表・論文発表

第 7 回日本生活支援学会において口頭発表済み

2015 年度聖隷クリストファー大学社会福祉学会学会誌に投稿予定